

## いもれ話8

### 多摩平団地と「かどで」像

多摩平第一公園に狍犬三頭を連れ、銃をかついだ男性の像があるのをご存じですか。「狩人の像」の名で親しまれていますが、正式には「かどで」という名の像で、もとは豊田駅の北口ロータリーにあったものです。

1960（昭和三十五年）年十二月六日に多摩平団地宅地開発事業の竣工式が行われました。この日、伊勢丹から寄贈された「かどで」像の除幕式も行われました。

「かどで」は、日展審査員の山本雅彦氏と木島延幸氏の合作です。多摩平団地のあった辺りは、そのむかし原っぱや雑木林が広がっていました。この像には多摩平団地という住まいの安定を得た勤労者が、毎朝、職場という狩の場に出掛ける時に見上げ、今日一日を過ごすようにとの意味が込められているそうです。

昭和五十年代に狩人の持つ銃口が曲げられ、現在は銃口の部分は欠損しています。



▲豊田駅北口にあった頃の「かどで」  
昭和40年代初め頃